日本一幸せな２万人のまちを目指して
～第２回「市長と語る会」

5月20日・市民会館　21日・別府センター　22日・城山センター　23日・金山センター　29日・立神センター

5月20日から29日までの期間、地域懇談会として第2回「市長と語る会」が市内5会場で開催され、延べ284名の市民の皆さんが参加しました。

今回は、「令和元年度の本市の主な施策」をテーマに、冒頭、市長から「産業」「教育、子育て」「コミュニティ、生活環境、健康、福祉」に関する本年度の新しい施策を中心に主な取り組みについての説明があった後、市民の皆さんから質問・意見・要望を伺いました。

市長の説明と市民の皆さんから出されたご意見等のうち、主なものを報告します。

産業

市長説明　水産業、水産加工業に関しては、枕崎水産加工業協同組合が仁田浦に建設中の化成工場が本年8月供用開始で進んでいる。これは水産庁の「浜の活力再生施設整備事業」を活用し、加工用原料のカツオなどの残さを再利用、有効活用するための処理施設を整備するもので、地域循環型の産業として各方面から注目を集めている。また、同じく水産庁の「浜の活力再生施設整備事業」を活用して、本年度は枕崎市漁業協同組合総合加工場の製造施設の更新を行うが、そのことが加工場から生産される製品の市場競争力を高める施策となる。

お茶や花き、畜産、果樹などの販売施策の後押しとしては、昨年アンバサダー協定を結んだ福岡の百貨店、博多大丸などを通じた販売やふるさと納税の返礼品事業を活用した販売促進などに取り組んでいく。

要望　鰹節工場から出る残さを使った堆肥でお茶づくりをしており、枕崎でしか生産できないお茶としてPRしている。新しく残さを処理する施設ができるということで、その残さを活用して生産する循環型農業をやらせてもらえたらと考えている。水産商工課と農政課が密に連携してもらって、海と山と合わせたかたちで枕崎の産業を盛り上げてもらえればと思う。

質問　ふるさと納税が8億あると聞いた。そのうち3割を返礼品として返したが、返礼品で人気がある物を教えてほしい。

回答　平成30年度で一番人気があったのが、カツオなどの海鮮や牛豚の肉の定期便である。そのほか鰹節、鰹節と削り器のセットも人気がある。水産物、水産加工品、焼酎、タンカンなどの地場産品の要望をいただいている。

教育、子育て

市長説明　昨年度末、福祉課が行った学校教育、子育てに関する意識調査アンケートや昨年の語る会でも保護者の皆さんから、多くのご意見をいただいた。

今年度の施策として、学校設備関係は国の交付金事業による小中学校の普通教室（特別支援教室含）の空調設備の整備に取り組む。また、ICT教育、プログラミング教育の充実を図るために各学校にタブレットパソコンを導入し、デジタル教科書等の活用へ向けた環境を整備する。

学校給食費に関しては、就学援助家庭への給食費助成割合を80％から100％へと拡大する。

質問　小学校から英語教育が始まるが、先生の勉強が大変ではないか。

回答　本年度から桜山中学校に英語の先生が1人増員された。桜山中学校には英語を教える先生が別にいるので、その先生は桜山小学校と枕崎小学校でも英語を教えており、小学校に中学校から専門の教師が行って教えるということを今年から始めている。また、英語指導員を1人増やして対応しており、ほかにも、外国語指導助手（ALT）がいる。

質問　枕崎の子どもたちが、枕崎が良いなと思えるような取り組みや実施していることなどがあったら教えてほしい。

回答　枕崎は4小・4中で、校区でしっかり小学校・中学校が繋がっている。そこを枕崎の強みにしたいと思っている。教育委員会と連携し、今取り組んでいる「子育てをここでしたい」と思う大人を増やしたいと考えている。

意見　枕崎はすごく自然が豊富だが、その自然を生かしている取り組みはないと感じる。SNSで枕崎の豊かな自然環境を拡散して、若い人たちが「自然豊かな場所で子育てをしたい」という気持ちが増えていけば、若者も増えるのではないかと思う。

▲5月23日、金山センター

回答　自然に触れ合うことで自然を大切にしようとする気持ちを子どもたちにも意識づけできる施策をやっていきたい。国連が出している持続可能な開発目標（SDGs）について、次期の地方創生総合戦略の策定に生かしていきたいと思っている。その中には海や山をきれいにしようという自然に対する取り組みや子どもに対する教育の部分もある。

コミュニティ、生活環境、健康、福祉

市長説明　防災行政無線のデジタル化施設整備を本年度で終了する。放送内容を携帯電話へメール配信する機能などの機能強化を図る。また携帯電話等のない方を考慮して、戸別受信機の普及も図っていく。

▲5月29日、立神センター

生活環境については、2024年（令和6年）に供用開始予定の南薩地区新クリーンセンター開設に向けて今後、ごみ収集の新たな仕組みの構築に取り掛かる。ごみの減量化などについては、本市の平成29年度実績による1日1人あたりのごみの総排出量は1136グラム／人日で県内19市で一番高くなっている。広報まくらざきでも本年度から枕エコ元年として広報活動を始めているが、さらに市民の皆さんのごみ減量に対する認識を高めていく努力をする。

健康づくりに関しては、5月18日に開催した「血圧を測ろう祭り」を皮切りに、本市の脳卒中死亡率や、国民健康保険の医療費の減少を目指し、高血圧対策に特化した市民の健康づくりとして鹿児島大学、本市医師会と共同で「高血圧ゼロの街　枕崎」プロジェクトを本年度からまず3年間、実施する。

また、本年10月からタクシー運賃助成事業を開始する。運転免許証を持っていない市民の皆さんの交通手段の確保に少しでも貢献できるように、まずは福祉的意味合いのタクシー運賃助成を始めるが、将来はデマンド型乗合タクシーなど地域の交通システムの構築につなげ、人の流れを再構築していく。

質問　消防のデジタル無線について、消防署は低い位置にあるが、大災害があった場合、消防からの発令はできないと思う。基地局の移動等の対策を市はどのように考えているのか。

回答　ご指摘のとおり消防署は海抜の低いところにあるが、津波等に配慮し、2階に機材設備を設置している。

質問　法律が通り、道路、橋、港工事、上下水道管理等全部の民間委託ができることになった。枕崎の水道事業について、現在、民間委託の話が出ていたら伺いたい。

回答　本市の水道事業については、現在県の指導のもとで南薩（南九州・南さつま・指宿・枕崎）で広域化に向けて話合いが進んでいる。枕崎のような（人口が3万以下）都市については企業が入ってくることもないと思う。本市としては、民間委託の前に広域化で経費削減できるところはしていこうと取り組んでいる。

意見　「血圧を測ろう祭り」に参加した。市の本気度を実感し、参考になったが、職員一人一人の取り組みに対する認識をもう一歩深めてほしい。高血圧予防のために「○○の摂取を減らすように」という注意することをよく言われるが、「○○を摂取した方がよい」というような、プラスになる働きかけの取り組みもあったらと思う。

質問　子ども食堂の話が新聞で出ていたが、1回きりなのか、今後継続していくのか。

回答　子ども食堂は、ボランティア団体として活動している。そのグループが立ち上げに県の事業を生かしながら取り組んでいる。子どもだけでなくて大人の方も来て、そこで交流が生まれる場になっており、今後も継続できるように支援したいと思っている。

また、ボランティア数が足りていないので、ぜひ声掛けと食材の提供ができる方がいたら、ご協力をお願いしたい。

その他

質問　地方創生総合戦略で若い世代の人口流出を減らす、都市部からの転入者数を増やすとなっているが、具体的にどういう取り組みをする考えか。

回答　人口流出を減らすため、枕崎の中で就職してもらいたいという思いがある。その取り組みの一つとして職場体験や、昨年から枕崎の企業に集まってもらい高校生に対し企業説明をする取り組みを行っている。

人口を増やす対策としては、Iターン者に対する支援をすることとしている。枕崎に1回も住んだことがない人たちが枕崎に定住するとき、住宅取得等の費用を助成するといった施策に取り組んでいる。

今年度、これまでの4年間の検証をする中で、さらに効果のある施策を立てていかないといけないと考えている。

要望　市長と語る会を年に2回開催するということだが、できれば県の「あなたのそばで県議会」と連携して一体となったかたちで、日常的に起こる事象をより吸い上げるチームみたいなものをつくっていただきたい。地域の実態を頭に入れた中で、市政運営に取り組んでいただきたい。

以上、主なものを報告しましたが、この他にもたくさんのご質問・ご意見・ご要望をいただきました。

今後も「市長と語る会」を開催する予定ですので、皆さんのご参加をお待ちしております。

■問合せ　総務課秘書広報係　TEL 72-1111（内線211）